

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員会委員長 鈴木隆弘

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆さん、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

本年度より、教職課程運営委員長を拝命しました人間科学部の鈴木隆弘と申します。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第6号をお届けすることができました。この『教職課程だより』の発行は2015年度より開始されたものです。本たよりは、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生、教職員その他の関係者、相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を図ることを目標としております。

本年も、2月に「教員採用試験合格報告会」と同日に「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」を開催することができました。第Ⅰ部の「教員採用試験合格報告会」において本年2019年度の教員採用試験合格者による報告を、卒業生教員の皆様ご指導いただきました。続いて第Ⅱ部の「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」では、在校生と個別の交流をしていただき、非常に有意義な時間を共有することができました。ご多忙のおり、ご来校いただいた卒業生教員の皆様には深く感謝申し上げます。さらにより良い会合を実施できるよう、教職課程運営委員会一同、努めてまいりますので、今後とも皆様のお力添えを賜りたく存じます。

今年度より教職課程の新しいカリキュラムがスタートしています。

このような状況の中、本年より、これまで準備して参りました「教職インターンシップ」が開始され、杉並区立済美小学校、浜田山小学校にそれぞれ2名の学生を派遣することができました。教育実習前に学校体験活動を実施することの意味が、「教職インターンシップ」では問われることとなりますが、幸い学生たちにとっては、あらためて教職の意義を理解するものとなったようです。

ご協力頂きました提携校の皆様には感謝申し上げますとともに、御礼を申し上げます。引き続き、実施いたしますので、卒業生の先生方におかれましても、ご支援賜りますことよろしくお願い申し上げます。

世界的な感染症の拡大により、全国一斉の休校措置が取られ、学校、そして学校教育の役割が改めて問われる時代へと突入しています。私が、高千穂大学に着任した2011年4月は、東日本大震災にともない、1ヶ月の休講措置が取られました。その時のことを今、改めて思い出しています。子供達の安全と共に学びをどう保障するか。教職課程の学生であっても、児童・生徒であってもそれは変わりありません。引き続き、本学教職課程へのご指導、よろしくお願い申し上げます。

(人間科学部)

教育実習報告会（7月6日）

「2019年度教育実習報告会」が、7月6日(土)にタカチホホールにて開催されました。今年度、教育実習に臨んだ学生は19名で、5月から10月までの期間に順次実習校に赴き、教育現場での実習を体験しました。本報告会では、教育実習を無事に終えた学生たちの中から、Yさん(商学部)、Iさん(人間科学部)、Sさん(人間科学部)の3名が、各々の実習での学びについて生き活きと報告してくれました。

3人の報告では、授業の準備の大切さや指導の難しさ等を痛感したこと、児童・生徒との交流等から教員のやりがいを実感したことなどが、具体的かつ率直に語られました。こうした先輩学生たちの報告を聴くことは、来年度以降実習を行う後輩学生たちにとって、今後の学びへの良い指針を得られる有意義な機会になったことでしょう。

(松丸啓子)

※本報告会の様子は「Quarterly TAKACHIHO」Vol.74にも掲載されています。
(<http://www.takachiho.jp/library/outline/quarterly/74.pdf>)

教員採用試験合格報告会（2月15日）

2月15日(土)に、「2019年度教員採用試験合格報告会」を開催しました。

当日は、寺内学長の開会挨拶から始まって、教員採用試験に合格した学生の報告、卒業生教員の教育実践報告、ご来賓の講評と続き、最後に、鈴木教職課程運営委員長による閉会挨拶がなされました。

合格体験報告は、埼玉県に合格したIさん、東京都に合格したSさん、神奈川県に合格したNさんの3名によって行われました。3名はいずれも、大学推薦による教員採用試験に合格した、児童教育専攻の4年生です。Iさんからは、埼玉県の小学校教員を目指した理由や自身の二次試験対策(小論文、個人面接、集団討論)などが、Sさんからは、東京都の一次試験(教職教養、小学校全科、小論文)と二次試験(集団討論、個人面接)の内容などが報告されました。また、Nさんからは、2・3年時にお世話になった「かながわティーチャーズカレッジ」の様子などが報告されました。振り返ってみますと、これらの報告から、①受験準備を余裕をもって早くから始めること、②勉強仲間をつくって一緒に取り組むこと、の重要性が指摘されたように思います。

教育実践報告は、福島県の高等学校のH先生と神奈川県横須賀市の小学校のY先生によって行われました。H先生は、事前に配付した「出席者用事前課題」を活用して、「なぜ先生になろうと思ったのか」「毎回指導案を書いているのか」「教員のやりがいとは」などについて語ってくださり、さらに、ご自身の経験をもとに、「児童・生徒と時間をかけて向き合う」ことの大切さを説いてくださいました。Y先生は、大学時代に身につけておいた方がよい力（タブレットの操作技術など）や、小学校教員として子どもと関わる楽しさ・魅力（「子どもの成長を保護者と共有できる」「毎日が新鮮！ 飽きることのない日々」）について語ってくださいました。

以上の合格体験報告と教育実践報告に対する講評は、杉並区立済美教育センター統括指導主事の古林香苗先生が行ってくださいました。先生は、各報告者の報告内容を肯定的に受け止め、その内容を活かすコメントをしてくださいました。さらに、これからの社会の変化を見据えて、AIと共生する時代の到来を指摘し、そうした時代の教員の役割は何かと問いかけてくださいました。

講評してくださいました済美教育センターの古林先生をはじめ、本会の実施に関わられた皆様に心より御礼を申し上げます。

(松丸修三)

卒業生教員の会（2月15日）

第Ⅰ部に続き、第Ⅱ部として「卒業生教員と教職履修学生との情報交換会」が開催されました。藤井理事長による挨拶の後、寺内学長による乾杯が行われ、和やかな雰囲気の中、懇談会が実施されました。

そんな中、現在は新潟県の高等学校のK先生が藤井理事長との懐かしい思い出と共に『社会人としての教師：教師たる者は』の視点で、学生、卒業生に向けて自身の甘さを見つめ直す大切さを説かれました。新しい時代に流されたり、古いものを軽んじたりする風潮がある今、「不易と流行」の「不易、変わらない大切な価値」を考えることができた時間でした。さらに、卒業生には社会へ向かう姿勢を、また、学生にはこれから教師を目指す心構えを胸に先輩の言葉を噛みしめながら交流会が進んでいきました。

高千穂大学には今回、報告をしていただいたH先生、Y先生など多くの先輩がおられます。諸先輩の跡を受け、後輩へと繋がっていく素晴らしい会でした。

参加いただいたすべての皆様に深く感謝すると共に、来年もまた多くの卒業生にご参加頂けるとことを祈っております。ありがとうございました。

（山田良一）

○本年度教員採用者について

2019年度 新規教員採用者は5名（3月17日現在：教務課把握分：教諭採用者のみ）です。卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<小学校教諭採用>

新しい時代に求められる学力を養う

松丸明弘

昨年の暖かな春の訪れと共に高千穂大学の教員になりました。新しい環境のもと、自覚と責任を持って仕事をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

私は、昭和 62 年から高校の教員となり、30 年以上を学校現場で過ごしてきました。その間で、最初の 25 年くらいは、世界というものはさほど変わっていきませんでした。ところが、ここ数年、変わってきているなど感じております。

まず、地球環境の変化です。地球の温暖化が進み、このままでは北極の氷がなくなるとか、インド洋上の島国モルディブ共和国が水没してしまうとか言われています。学校においても、夏に暑すぎるためにグラウンドで授業や部活動ができないという状況は今までありませんでした。さらにチェルノブイリに続いて福島で原発事故が occurred。私は、福島原発からすぐの浪江町から避難してきた転校生の担任をしたことがあります。本人や保護者からたくさんの苦労話を聞きました。このようなことが今後あってはなりません。世界の人々が安全に暮らせる環境を維持しなくてはならないという時代が来ています。そしてそのためにはどのような学力を身につけたらよいのかを考える時代が来ています。

学校社会も大きく変わってきています。毎日の授業で知識を暗記させるだけではだめだという時代になってきました。知識だけではなく、思考力や表現力を高めて行く必要が出てきました。そのため授業の方法を大きく変えていかなければならなくなりました。私などは、社会科のなかでも特に歴史系の科目が専門で、今までは「講釈師 みてきたような 嘘を言う」という雰囲気のある授業をしてきましたが、そうはいかなくなりました。「あなたが松平定信だったら、どういう改革をしますか、グループで話し合ってみましょう。」というように、発問や作業を取り入れる授業をしなくてはならなくなってきました。

ICT(Information and Communication Technology)の活用も叫ばれています。これからはワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを活用し、授業に必要な資料を作成することができなければなりません。そして、児童・生徒が情報社会への参画にあたって、自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導していかなければなりません。情報管理の面できちんとした知識・理解がなければなりません。

私は、こうした新しい時代に求められる学力の育成に取り組んでいきたいと思っております。新しい時代に求められる学力とは何かということを学生のみなさんと考えて授業をしていきたいと思っております。そして、できるだけ多くの学生が教員の資格を取り、教壇に立てるように願っております。

(人間科学部)

＜本学教職課程の概要について＞

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。

月	行事	内容
4月	履修オリエンテーション	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生から、教育実習の体験をお伺いします。
8月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す3・4年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
9月	履修オリエンテーション	秋学期履修に向け、学年ごとに実施します。
11月	新規履修者オリエンテーション	新規履修希望者向けにオリエンテーションを実施しています。
2月	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「オリエンテーション」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
 - 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
 - 教職課程及び就職課に対する、私立学校からの求人を知りたい時
- 以上の際には、学務部 教務課(TEL:03-3313-0146)までお問い合わせください。

本年度より、教職課程の制度が変更(新教育職員免許法施行による)になりました。

科目等履修生に出願の際は、事前にお問い合わせください。

＜目次＞

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介…………… p.2～4
- 本年度教員採用者について…… p.4
- 着任のご挨拶…………… p.5
- 事務連絡・奥付…………… p.6

「高千穂大学教職課程だより」第6号 2020年3月20日発行

＜2019年度 教職課程運営委員会＞

委員長 鈴木隆弘
 常任委員 松丸啓子 委員 齋藤元紀 委員 楠美将彦
 委員 松丸明弘 委員 松丸修三 委員 山田良一
 教務課 北田大介 山本路子

(本年度編集担当：鈴木・松丸啓子)